

# 社会起業家の登場

茨城大学非常勤講師 速水 智子

## 新しいタイプの起業家

起業家とはいかなる人物なのであろうか。この問いに初めて経済学から取り組んだのは、リチャール・カンティヨンと言われている。起業家は古くは、冒険家、卸商人、発明家としてとらえられていた。またある時は、金融資本の供給者、監督者、請負人とされた。中でもシュンペーターのイノベーションの担い手としての起業家像は、今日広く知られているところである。起業家とは常に時代精神や社会制度、経済の枠組み、社会の価値観とあいまって千変万化する存在であると考えられる。

このような中、近年欧米を中心として社会起業家（ソーシャル・アントレプレナー）と呼ばれる新しいタイプの起業家が見られるようになってきた。

2006年グラミン銀行のムハマド・ユヌスが社会起業家としてノーベル平和賞を受賞したことにより、世界的に関心が寄せられるようになってきた。ユヌス氏はすでに20年以上前からバングラデシュの貧困層、特に女性たちに無担保超少額融資（マイクロクレジット）を行い、貧しい人々への教育の可能性や経済的自立の道を拓いた。

## 社会起業家とは

社会起業家は、社会問題の解決を使命として、医療、福祉、教育、環境、文化など幅広い分野で本業として社会サービスを提供している。従来の慈善家や社会サービス事業者と異なる点は、社会問題の解決を新しいビジネスモデルを創出して行う点である。例えば、モーソン牧師の場合は荒廃したコミュニティ（プロムリ・バイ・ボウ）を再生した事で知られる。公園、病院、保育園、教会、コミュニティ・ケア住宅を統合したイギリス初の健康生活センターを創設した。これらは住民との共働によって、適切なニーズを拾い上げており、従来は個別に運営されていた公的施設を含む様々な施設を統合させた点が特徴でもある。その後、CAN（コミュニティ・アクション・ネットワーク）を設立し、社会起業家を支援している。またロザンヌ・ハガティのNPO コモン・グラウンド・コミュニティでは、ニューヨークの荒廃した名門ホテルをホームレスの住居として再生するビジネスモデルを考案。そこでは、職業訓練、仕事の間、文化的な居住

空間の提供など一体的な自立支援プログラムを実施している。民間デベロッパーもしのぐほどの経済規模を誇り、このモデルは次々と展開されている。ほかにも、欧州初のエイズ治療センターのマイルド・メイ病院のヘレン・テイラー・トンプソン、世界の子供たちへの教育支援について、寄付賛同者をネットワークでつなぐ双方向型モデルを考案したRoom to Readのジョン・ウッドなど多彩なビジネス手法が見られる。日本においても病児保育サービスの非施設・保険共済型モデルを考案し、健闘しているフローレンスの駒崎弘樹などが知られている。

## 社会起業家の二つの役割

社会起業家の役割において重要な点は二つあると思われる。一つは、モーソンやロザンヌ、駒崎、ウッドに見られる、社会サービスを卓越したビジネスモデルで推進していく点である。すでにイギリスでは、社会起業家の活用を積極的に進めており、「強力な社会的目的と活力のある起業家的な推進力の結合」という表現で起業家的な能力に期待を寄せている。もう一つは、社会を変えていくインパクトをもたらす役割である。つまり、ソーシャル・イノベーション（社会変革）の担い手としての側面である。ユヌス氏のマイクロクレジットは、すでに世界50カ国以上で採用され、融資を受けた貧困者は世界で一億人を超えていると言われる。また、社会起業家の支援組織であるアショカ財団では、20年以上にわたり、約1,500人以上のアショカ・フェローと呼ばれる社会起業家を発掘、創出している。アショカ・フェローの生み出した事業モデルの93%は広く普及し、その56%が5年以内に各国の政策に影響を与え、71%が10年以内に硬直した政策の変更や廃止を促している。

こうした多くの社会起業家の存在は、より良き社会の実現へのドライビング・フォースとなりえると考えられる。

今後、日本においても、日本固有の問題に対応する社会起業家たちの活躍に、期待が寄せられる。